

グリーンコープは 広島県集中豪雨土砂災害被災地への 支援に取り組んでいます

※
～公益財団法人 共生地域創造財団とともに、必要な支援を細やかに継続していきます～



共生の時代

みどりの地球を
みどりのままで

号外

発行：グリーンコープ共同理事会
編集：共生の時代・編集部
〒812-8561
福岡市博多区博多駅前一目5番1号
ヒューリック博多ビル3階
TEL092 (481) 7923
FAX092 (481) 7876
<http://www.greencoop.or.jp/>

グリーンコープの組合員から
27,586,000円
のカンパ金が寄せられました
(2014年9月15日現在)
ご協力ありがとうございました

※ホームレス支援全国ネットワーク・生活クラブ生協・グリーンコープが連帯して、東日本大震災の被災地の復興支援などをしながら地域創造の実現をめざす団体

8月19日深夜から20日未明にかけて局地的かつ記録的集中豪雨によって、広島市安佐北区の一部と緑井・八木地区を中心とする安佐南区は、大規模な土砂災害に見舞われました。
現地のグリーンコープ生協ひろしまでは発生当日から支援を開始し、翌週には共同体全体でのカンパの取り組みを始めました。東日本大震災の被災地支援の経験を生かしながら、必要な物的支援と人的支援に、共同体全体で取り組んでいます。
9月半ば、被災からまもなく一カ月となる現地では瓦礫や土砂の撤去作業がすすみ、避難所も閉鎖されていく中で、緊急的な支援は終えようとしていました。道路などは復旧しても、家を失った被災者の方々はそれぞれの暮らしを取り戻すまでには、中長期的な支援が必要です。
組合員から託されたカンパで必要とされる支援を継続していきます。

現地グリーンコープ生協ひろしまの本部が窓口となって支援に動く

ひろしまの金築専務に災害発生から3週間の動きを聞きました。



グリーンコープ生協ひろしま専務理事 金築 英司さん

「東日本大震災の時にボランティアを経験しました。規模は違いますが、今回の災害支援については、被災された方に聞いたこと、被害を目の当たりにして感じたことに対応していこう。自分たちができることをしよう」という思いで、支援の窓口を担っています。

まずは組合員の被災状況を知る

グリーンコープ生協ひろしま本部も今回の被災エリアの広島市安佐南区緑井にあります。まず組合員の被災を心配しましたが、なかなか確認できませんでした。当日の配達は道路が土砂で埋まり、バイクなども駆使して奔走しました。

翌日には、組合員の安否確認と併せて避難を余儀なくされている方に支援物資を届けたいと、避難所を訪ねて聞き取りを始めました。1週間後ようやくやく組合員の安否の確認ができました。残念

ながら同居されているご家族を川の増水で亡くされた組合員さん、家屋や車などが流されたり壊れたり、土砂が流入したりといった被害に遭われている方もおられました。3日目には福祉ワーカーの利用者の無事は確認ができていました。CO-OP共済の加入者の方には給付手続きの案内も併せて行いました。

組合員の思いが嬉しくて

被災当日の夜、グリーンコープ共同体に連絡を入れたところ、既に支援物資として飲料水がひろしまに向かっていること、他の単協でカンパの呼びかけが検討されていることも知り、とても心強く感じました。

翌々日の理事会でひろしまでもカンパに取り組みを確認。その際「新学期がはじまるから文具が必要では？」という熊野理事長の発案で、チラシに文具のカンパを呼びかけたところ、呼びかけた皆さんの文具が寄せられました。また、「避難所の夜は寒いので、毛



ひろしまの組合員から寄せられた文具類(一部)。「被災地の方々が少しでも勉強する環境になりますように」というメッセージも添えられていた

地域のために 用水路の土砂撤去

ひろしまの本部は辛うじて被災を免れましたが、側の用水路には大量の土砂が流入し、当日は用水路が溢れ、駐車場などは水浸しでした。再び大雨が降ることが心配だという地域の方の声を聞いて、8月30日にはひろしまの職員総勢30人で土砂をスコップで掻き出し、土嚢に入れて撤去する作業にあたりました。暑い中、5時間に亘る作業となりました。



職員有志で用水路の土砂撤去を行った。土嚢袋にして約1200袋分もあった

組合員・ワーカーズ・職員
それぞれができる
支援をする

**延べ40人のグリーン
コープの職員による
人的支援**

各単協からの応援の職員とひろしまの職員が交替でボランティアとして、家屋や敷地内に流入した瓦礫や土砂の撤去作業にあたりました。共生地域創造財団のネットワークで、地元や今回の支援にかけたボランティア団体と関係を繋ぎ、連携して必要なところへの人的支援を行うことができました。また、その関係を生かして、避難所での聞き取りだけでなく、必要な物資支援も実施できました。



ボランティアの職員の食事づくりを担っている福祉ワーカーズ「めーぶるネット」のワーカーの皆さん



他のボランティア団体とともにグリーンコープの職員ボランティアが、組合員さん宅の土砂撤去の手伝いをしました

**何かしたいという思いで、
支援者を後方支援**

各単協から参加するボランティアのための臨時の宿舎を、福祉ワーカーズの事務所のあるマンションの一室に用意しました。何かできることをしたいという福祉ワーカーズの申し出に、暑い中慣れない重労働に励むボランティアの職員の食事を

作ってもらえたらと相談しました。その日から福祉ワーカーズのメンバーが栄養のあるおいしい食事作りを担っています。そんな縁の下の力持ち的な後方支援が行われています。

**東日本大震災支援の
経験を生かした
支援を続けたい**

グリーンコープの商品

**被災者に寄り添う
支援とは…**

9月に入って、一緒に避難所を回りました。実際に行って、そこは非日常だと思いました。食べものこそ日常のもの。日頃食べているものを炊き出して食べてもらってはどうかということ、直後の組合員の会議で提案したら、すぐに炊き出しをしようともまりました。みんなも何かできることをしたいと思っ

**9月20日(土)、
ひろしまの組合員が
炊き出しを行いました**

◀日中はまだまだ気温が高く冷たいものや、のどごしのいいものが喜んでもらえるのではと考えて、冷やしぶっかけうどん、冷奴、お結び、漬物、フルーツなどを準備しました



暑い中土砂の撤去作業を行った60~70人のボランティアの皆さんには冷たく、のどごしのよいメニューが好評でした



グリーンコープ生協ひろしま 理事長 熊野 千恵美さん

たんだと嬉しく思いました。グリーンコープだからみんなまでできることがあると改めて思いました。福祉ワーカーズの皆

さんの食事作りのことも聞き、グリーンコープの仲間たちはすごいなと改めて感激しました。また、発生翌日から避難所を巡回してきた職員は、モノを持っていくことではなく、必要なものは何ですかと聞き取ることに努めていると聞いていました。一緒に聞き取りをして、この職員の姿勢こそが被災された方に寄り添うことだということも実感しました。グリーンコープは実際に現地に行ってみて感じることをこれまで大切にしてきましたが、それは本当にすばらしいことだと確信しました。

**共生地域創造財団は
支援のコーディネートをしています**



各単協からボランティアに入ったグリーンコープ職員



公益財団法人 共生地域創造財団 事務局長 島田 一彦さん

今回は、財団の母体の一つグリーンコープのエリアで起きた大規模な自然災害でした。グリーンコープと相談して、地元で支援にあたる人たちが有機的につながって、それぞれの持っている資源を生かしあいながら、長く復興のお手伝いをしていくことが必要だと考え、外からの客観的な視点でな

一般で参加するボランティアは、1日だけの人が多く、3分の2は初めての参加でした。グリーンコープの人的支援が1週間単位で入っていることで、活動・状況も理解し、現場のリーダーを任せられるという、重要な役割を果たしています。ボランティアの多くが若者

なのですが、年齢や性別を問わず、暑い中きつい仕事を黙々と無償で行っているひたむきさ、一所懸命さに改めて刺激されたというグリーンコープの職員の感想も聞かれました。

今後、瓦礫や土砂が撤去され道路や土地が復旧したら、避難所は閉鎖され、住むところがない被災者には当座住む住宅への引っ越しが発生します。その際の家財の運び出しのためのトラック、人手の支援、住宅を再建するための費用の貸付などさまざまな支援が必要になってきます。もちろん公的な支援もあると思いますが、その際に生活再生相談など、それぞれの被災者の家計への具体的なアドバイスなども有効ではないかと思っ

ます。そのようなオールグリーンコープが持っている資源を財団が被災地の関係団体とコーディネートすることも可能です。それも財団の役割だと思っています。

始めています。そのような中、共同体をはじめ皆さんに支えられ支援が続けられることに感謝しています。支援の内容は変わっていくと思いますが、できる支援を続けていきたいと思っています。

例えば、避難所で使う毛布が必要と連絡を入れると、ファイバーサイクルセンターに保管されている衣類や寝具類の中から必要なものをグリーンコープの配送網で直ちにひろしまに送ってもらい、避難所に届けることができました。各組織の連携プレイで迅速に届けています。

現状からは、支援に終わりが見えませんが、発生から時間が経過し、人的・物的な支援が途切れ

取引先からの無償提供品などを活用して、飲料や食料、日用品などを届けたいと思います。かかった費用は組合員からのカンパ金で賄っています。被災から3週間以上経過し、ニュース報道なども少なくなる中、必要な支援物資が届かない状況も見られます。避難生活から日常を取り戻せるまで、物的な支援も継続していく予定です。

**必要な支援物資を
届けています**



氷を作って届けています
今回グリーンコープの事務所や物流拠点が現地にあり、自分たちでできることをしたいという思いが強くなりました。例えば、氷が必要となれば、グリーンコープの冷凍庫で、ふくおかで以前配達で使っていた豆腐容器を送ってもらって製氷器代わりにし、継続して氷を作って届けることができています。